



問 「生活習慣病の漢方治療とはどのようなものでか？」③

答 肥満と関係が深い「糖尿病」「高血圧」「脂質異常症」などの生活習慣病に関する漢方治療について、日本東洋医学会が出版している「漢方医学テキスト」には記載されていますが、当院でよく処方されるお薬に関して、お話しています。

今回は、「六味地黄丸」です。六味地黄丸は、「小児直訣」という書物で紹介されています。構成生薬は、地黄、山薬、山茱萸、牡丹皮、沢瀉、茯苓です。「もともと元気がない子どもで、声が出なくて、視線が合わず、精気が感じられず、白目がちで、顔色が青白いときこ用いる」と記載されています。

図は、私の漢方の師匠が描かれた六味地黄丸の腹証図です。①は、ぼろぼろのあたりを触れると、硬く張っ

ていることを表しています。水の流

れが悪くなり（水滯といいますが）、尿が出にくくなっています。地黄と沢瀉が有効で、水の流れを改善し、尿を出しやすくしてくれます。②は、下腹の深いところの血の流れが悪くなっていること（瘀血といいますが）を表しています。牡丹皮が有効で、血の流れを改善し、女性であれば、生理をととのえてくれます。③は、お腹の上の方で、水の流れが悪くなっていること（水滯）を表しています。

茯苓が有効で、水の流れを改善し、むくみをとってくれます。山薬と山茱萸は、からだを元気づけてくれます。要するに、六味地黄丸は「水の流れを改善し、尿を出しやすくする。からだの深いところの血の流れを改善する」お薬といえます。

実際の診察場面では、六味地黄丸を、最初から処方することはほと

んどありません。多くの方では、水の流れが悪くなっていると同時に、からだの表面付近の、浅いところの血の流れも悪くなっているため、前回お話した四物湯から治療を開始することが多いようです。四物湯を服用していただき、からだの浅いところの血の流れが改善した時点で、六味地黄丸にお薬を変更させていただきます。

